

母子手帳で母親の風疹抗体価を確認しよう！

第122回日本小児科学会学術集会
2019.4.21

わたなべ小児科医院（石川県金沢市）
渡部礼二

日本小児科学学会
COI (Conflict Of interest:利益相反)開示

発表者:渡部 礼二
利益相反に関する
開示事項はありません

平成30年6月23日

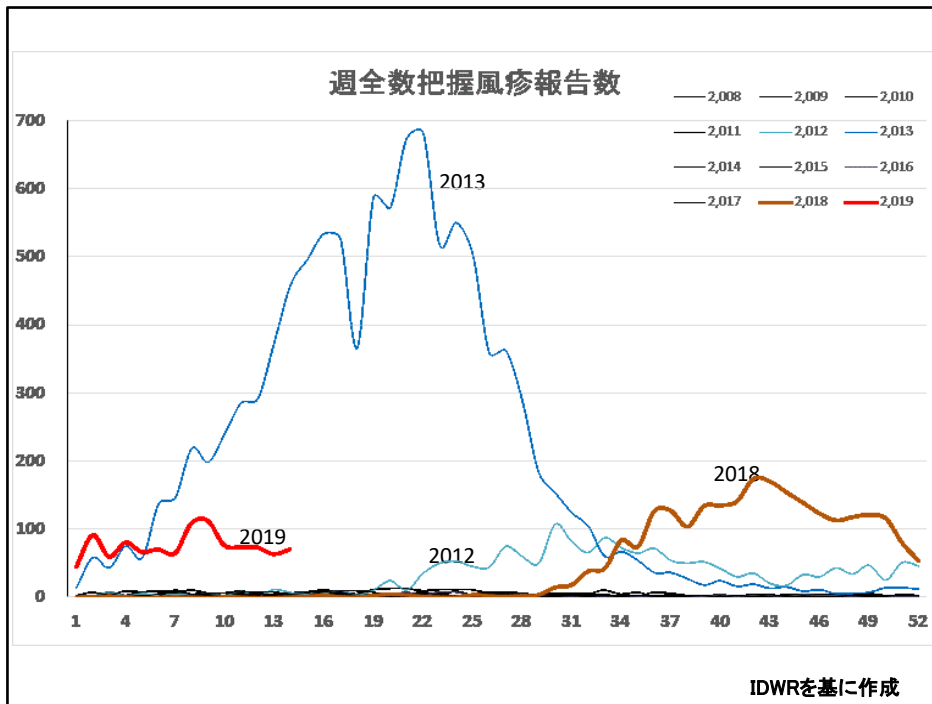
この演題に関してCOIはありません。

定期接種としての風疹ワクチン

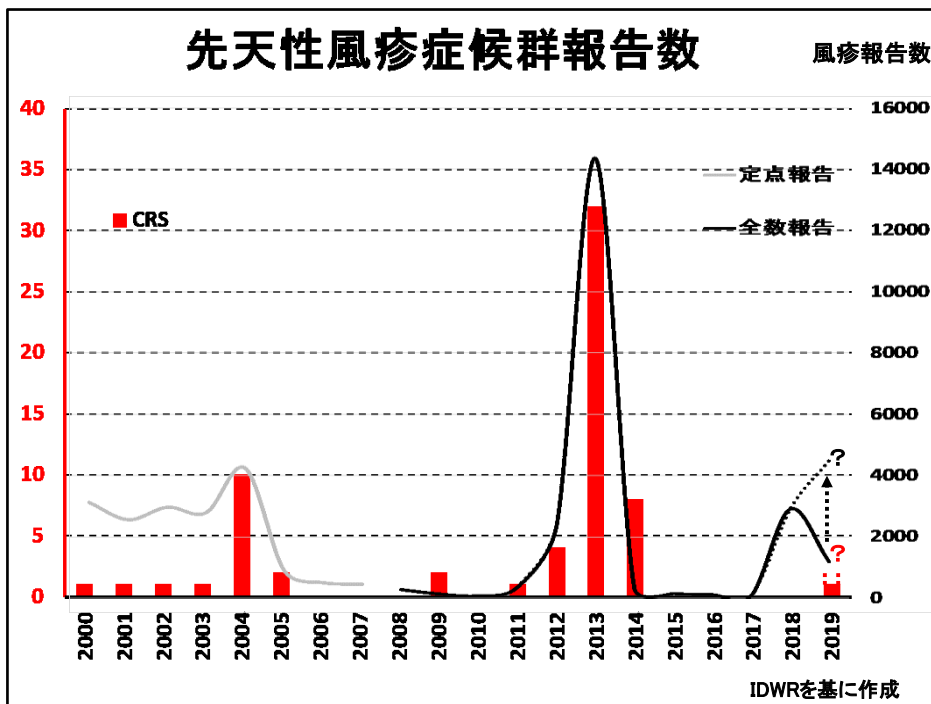
2019.4.1現在

年齢	生年月日	接種年齢(1回目)	接種年齢(2回目)
14y0m	2005.4.2～	1y時(MR)	小学入学前1年間でMR
19y0m	2000.4.2～2005.4.1	1y～5y(R)	小学入学前1年間でMR
24y0m	1995.4.2～2000.4.1	1y～7y6m(R)	中学1年でMR
29y0m	1990.4.2～1995.4.1	1y～7y6m(R/MMR)	高校3年でMR
31y6m	1987.10.2～1995.4.1	1y～7y6m(R/MMR)	
40y0m	1979.4.2～1987.10.1	中学男女	
57y0m	1962.4.2～1979.4.1	中学女兒のみ(集団接種)	

風疹ワクチンの目的は/先天性風疹症候群（以下C R S）の発生を予防することにあります。その為に、50年以上の試行錯誤の結果が/現在の接種制度であります。現在の妊婦たちは中学で1回だけの接種か、就学前の1回と中学・高校での2回目の接種であった者がほとんどであり/黄色の字で示してあります。



昨年から風疹が流行しております。



2004年に10人、2012年から13年にかけての風疹の大流行の後(あと)145名のCRSが報告されました。また、昨年からの流行では1人報告されております。この(スライドの2004年を！)

風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言 平成16年8月

1. 妊婦の夫、子供及びその他の同居家族への風疹予防接種の勧奨
2. 定期予防接種勧奨の強化
3. 定期接種対象者以外で風疹予防接種が勧奨される者への接種強化
 - 1) 10代後半から40代の女性、このうちことに妊娠の希望あるいはその可能性の高い女性
 - 2) **産褥早期の女性**

妊娠中の風疹HI抗体が陰性または低抗体価(HI価16以下)の女性は、出産後早期(産褥1週間以内の入院中、もしくは1か月健診時に行うことが推奨される)。に接種を受けることが強く勧められる。(その際の接種記録は、母子手帳の児の欄には記録せず、妊娠経過の欄或いは産後早期の経過欄に母親への接種であることを明記する。または、予防接種証明書を発行し、本人の記録として残す。)

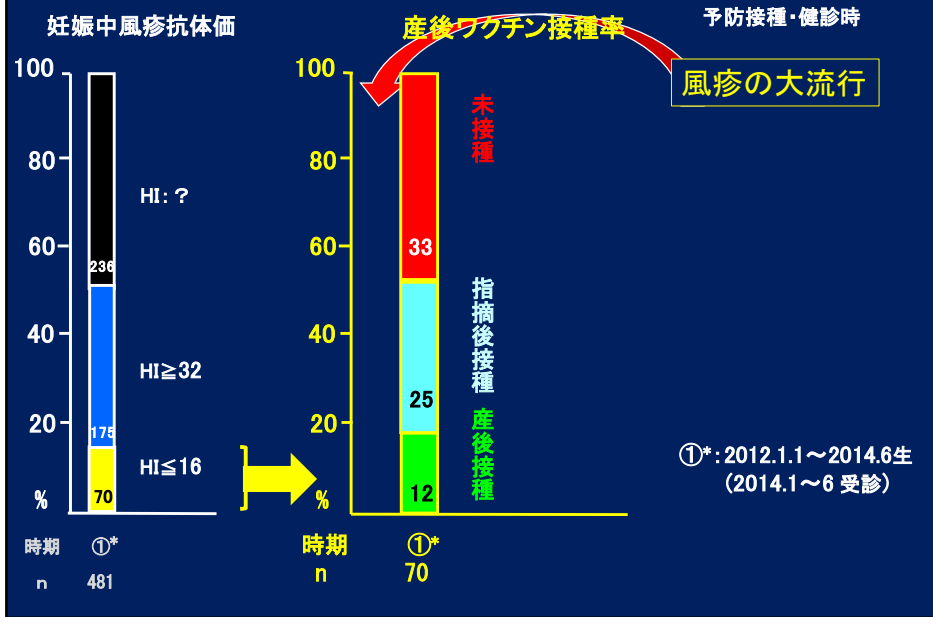
厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業分担研究班

2004年のCRS発生の後(あと)に/厚労省研究班からの緊急提言が出され、風疹低抗体価の産褥婦には/産後早い内にワクチンの接種を勧めております。同様に/日本産婦人科学会と医会からも推奨レベルCではありますが出されております。

検査結果報告書		
		
医院名 (01495) 〇〇病院(産科)	受付 平成 25 年 2 月 26 日 カル子№. 41936	
患者名 〇〇〇〇	殿 年齢 歳	
検査項目	結 果	基 準 値
RPR法定性	陰性	陰性
TPHA定性	陰性	陰性
HCV抗体	陰性	陰性
HBs抗原定性	陰性	陰性
ABO型	O	
Rh型	(+)	
トキソプラズマ抗体	80未満	160倍以上陽性
HTLV-I抗体	16未満	16倍未満
風疹HI	16	8倍未満
血糖	64	70-100
HIV抗原・抗体	(-)	(-)

風疹大流行の2013年の暮れ、健診の時/母子手帳で母親のHIが低いのに気付きました。しかし、母親は抗体価が低いことも、次の妊娠の為に予防接種をしなければならぬ事も、知りませんでした。

妊娠中風疹抗体価と低抗体価産褥婦の産後ワクチン接種



その様な症例が続いたので、その翌月の1月か
ら半年(とし)間に/予防接種や健診で受診した者
の内、風疹が流行した2012年1月以降に生まれ
た児の母子手帳で/抗体価をチェックをし、産後
のワクチン接種状況を聞き出しました。抗体価
が判らない場合は産科に個々に問い合わせても
もらいました。

—スライドを説明しながら—

HI32倍以上の群には /HIが不明でも /2回接種
が確実な者、前の妊娠中のHIが32倍以上の者、
前の分娩後ワクチン接種した者も含まれていま
す。また双子は1人として処理しました。

(日本環境感染学会)

こちらは全ての母親を100%、こちらはその内
の/低抗体価だけの母親を100%として示してあ
ります。

約半数に抗体価が判りましたが、その内29
%が低抗体価で、その低抗体価だった者の内の

17%しか産後ワクチンをしていませんでした。低抗体価の者の内36%は当院で指摘後に接種をしたもので、なにもしなければその[この]83%は放置された事になります。数字は実数であります。(計53%)
これが！風疹大流行でCRSが多数発生し、マスコミが騒いでいる真最中に/出産した妊婦の実情でありました！

産科では

- 低抗体価の産褥婦にガイドライン通り接種
 - 抗体検査未実施
 - 希望者のみ抗体検査
 - 2子以降検査未実施
 - 3子以降接種せず
 - 低抗体価も接種勧奨せず
 - 低抗体価を従来の $HI \leq \times 8$ で判断
 - 授乳中は接種せず
 - ワクチンの在庫(一)
 - 高齢出産
- ..など様々

抗体検査をしなかったり、ワクチンを接種しなかったのはスライドの様な理由でありました。余りにもお粗末だったので、

☆風疹ワクチンを受けましょう☆

お母さん自身へのワクチン接種のすすめです。
本日健診～予防接種に来られた児がまだ胎内に
いる時に調べた風疹の抗体価が低く、風疹にか
かる危険があります。

妊娠20週までに風疹にかけると、胎児に感染
し白内障や緑内障などの眼症状、先天性心疾患
、難聴などを引き起こします。先天性風疹症候
群と呼ばれています。

妊娠が判明するのは早くも2ヶ月目（妊娠4～
7週）、通常3ヶ月（8～11週）

なのでそれからの予防では遅く、接種もできま
せん。

次子を妊娠する前にワクチンを接種し、風疹に
かからないように予防して下さい。

なお、接種後2ヶ月は妊娠しない
ように。

わたなべ小児科医院
TEL 076-243-0200



私のクリニックでは/低抗体価の母親へ/個々に言葉
だけではなく/接種勧奨の葉を手渡しております。

低風疹抗体価の妊産婦は分娩後早々に風疹の予防接種を！ 乳幼児健診時は母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

担当理事 渡部 礼二

1 昨年从去年にかけての風疹の嵐の後、その前報として本年度は32例、本年度は既に8例の先天性風疹症候群(以下CRS)の報告が感染症学センターになされています。

CRSを予防するには妊娠する前に風疹に対する抗体を維持して風疹に罹患しないようにすることが、抗体価の低い人はワクチン接種で抗体価を上昇させることである。妊娠が判明すると例外を置いてどの場合、胎児の抗体価を報告される。抗体価が低い(HI≦1/16)妊婦は妊娠20週までに風疹に罹患すると胎児にCRSを発生するおそれが多いので、人混みを避けるなど風疹に罹患しないよう注意がなされる。風疹に罹患せず抗体価が低いまま分娩したとしても、次子を妊娠する前(今回の産前早期にワクチンの接種を勧奨することになっている(男労省・日本産婦人科医学会)。

金沢市内の某小児科で今年1月から4月に3ヶ月、1歳、2歳の乳幼児集団健診で実施した際、母子手帳で妊娠中の風疹の抗体価を判るものだけ記録し、真かつたものにはワクチンの接種の有無を問いた。135名の健診児の内母で32は40名、≦1/16は15名、不明は71名であった。HI≦1/16の15名の内ワクチンを接種しているのは分娩後に1名だけであった。また1名はワクチン未接種のまま次子を産んでいた。

同様の調査が5月に3ヶ月児の集団健診で市内の一つの保健児童センターで「ロックスステイ」として行われた。110名の健診児の内、32は48名、≦1/16は36名、不明は26名であった。≦1/16の36名の内接種を勧奨された一部の8名だけがワクチンを接種していた。16名は接種勧奨もされなかった。

マスクにもあれ程度広がった風疹流行の真つち中から直後に判明した抗体価の低い妊婦であったにも関わらず、分娩後のワクチンの接種が余りにも少ない。一斉風疹ワクチンへの意識が低く、次子の妊娠時に一斉CRSの危険性が低いと思われる集団でのことである。風疹の流行がなかった地域と

はいえ、この状態では風疹が入り込むとCRSは必発である。風疹抗体価の妊産婦が分娩後早々にワクチンの接種勧奨は当然であるが、小児科でも健診時に母子手帳をチェックして接種の勧奨をし、CRSの児が生まれないようにしてはいけない。我々は本土復帰前の沖縄でのCRSの多発を忘れてはいけない。

なお、石川県産婦人科医学会にはこの事実を報告後、早々に会員への注意を会報等に掲載された。



石 産 婦 報 第 8 号
平成 26 年 6 月 3 日

会 員 各 位

石川風産婦人科協会

会長 伊 田 俊 彦



産後の風疹ワクチン接種勧奨について(お願い)

産後の換 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

今般、金沢市内の某小児科医から、産婦の風疹抗体価が異常に低いという報告を受けました。以下は、6か月・1歳・2歳児健診時の母親の風疹抗体価の統計です。

2歳児健診	総数 30 : ≦1/16 3名 (内1名は除菌前に妊婦)、≧32 8名、不明 21名
1歳児健診	総数 42 : ≦1/16 4名 (内1名は分娩後接種)、≧32 13名 (内1名は上の死の時の値)、不明 25名
6か月健診	総数 63 : ≦1/16 8名 (総て未接種)、≧32 30名、不明 25名

◆135名中判明している15名の産前抗体価で産後ワクチンを接種したのは1名だけ。
◆殆どは抗体価が低くワクチンの必要性がある事も知らなかった。
(注：不明はデータの記載がないか、低価が母子手帳に使んでないもの)

このように、産後に風疹抗体価が非常に低いことがあります。このような状態で北陸に風疹が流行すればCRSは必発です。各医療機関におかれましては、抗体価の低い産婦に産後早々の接種勧奨をお願いいたします。

他に市医師会報と県産婦人科医会報に投稿したり、

要望書

2016年6月19日

石川県産婦人科医会会長 荒木克己殿

石川県小児科医会会長 斉藤建二

風疹低抗体価産褥婦に対する産後ワクチン接種勧奨に関する要望

開発当初より風疹ワクチンは先天性風しん症候群(CRS)の発生予防をエンドポイントとして接種体制の変遷があり、2006年から現在の麻疹風疹混合ワクチンでの2回接種になりました。しかし、2004年には10例、2013から15年にかけて45例(内7名死亡)のCRSが報告されました。

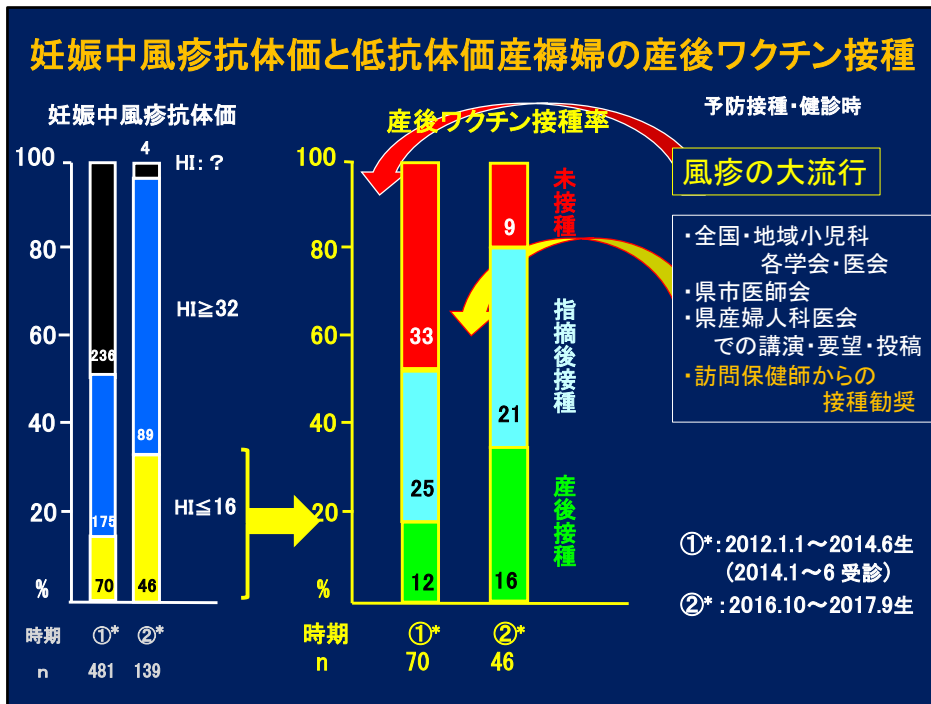
2004年8月に「風疹流行および先天性風疹症候群発生抑制に関する緊急提言」が厚生労働省からなされ、その後日本産婦人科医会、日本産婦人科学会、さらに2013年からの流行で再び厚生労働省から、低風疹抗体価の妊産婦に対する産褥期早期風疹ワクチンの接種も勧奨しております。

妊婦の風疹低抗体価は20%超と報告されおり、石川県でも2015年度に小児科医会会員の母子手帳等での外来調査では、25%超(52/186)が接種勧奨のHI \leq 16であり、しかもその内産褥早期に産院で13%(7/52)しかワクチン接種されていないという発表がありました(2014年には年齢対象、調査期間は違うもHI \leq 16:22%、接種率20%)。

妊娠適齢期の年齢でしかもこの後次子を授かりやすい境遇にある風疹低抗体価の産褥婦であります。また石川県で風疹の流行が少なかったとは言え、全国で大流行しマスコミを騒がせた直後での値であります。

1965年の沖縄の流行でCRS408人を我々は経験しての今回のCRS報告であります。風疹は約5年毎に流行しております。風疹低抗体価の産褥婦には次子のCRS発生予防の為にまた社会免疫の為に、産後早期に少しでも多くの風疹予防接種の接種を小児科医会として切望しているものであり、貴会会員への厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産婦人科学会からの勧告・ガイドライン等に沿っての接種勧奨及び実施の周知を強く要望するものである。

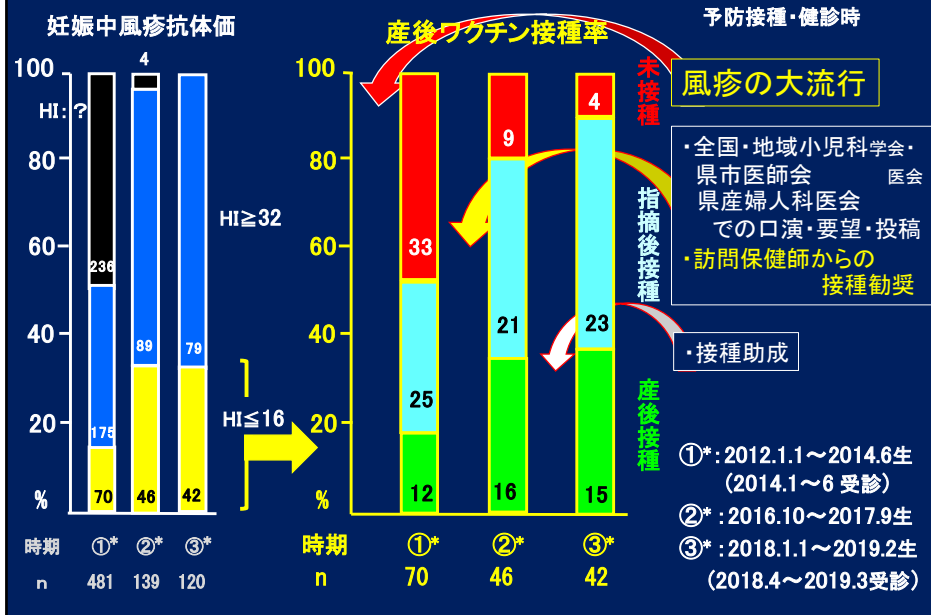
また、県小児科医会から県産婦人科医会への要望書を提出してもらいました。



他に、小児科の各種学会、医会、医師会などで/現状を報告して参りました。

そして2016年の10月から/さきおととしの9月までの1年間のデータを/同様にとりました。今度は低抗体価の内の35%は/産後産科でワクチンを接種され、以前の2倍に接種率は増加し、産科への働きかけが/少しは功を奏したものと/思っております。その後(あと)当院などで46%が接種され、計81%に接種が来ております。この産科退院後の接種には、児のHib等/予防接種時の母親への接種勧奨によるものもありますが、産科で低抗体価である事を言うてくれるようになったことと、新生児訪問保健師の接種勧奨が大きな/動機付けになっていた印象があります。

妊娠中風疹抗体価と低抗体価産褥婦の産後ワクチン接種



そして、金沢市はその接種に対し/昨年の4月から助成するようになったので、今年3月末までの1年間のカルテで助成効果を調べました。助成の効果もあり、低抗体価産褥婦の接種率は90%を超えました。

これらデータは接種勧奨をしているツブクリの1診療所でのものですが、産科退院後の接種勧奨が非常に大きなウェイトを占めております。新生児訪問保健師が/ワクチンの接種を勧めてくれたり、接種に対し助成をなされる等/行政も後押しをしてくれるようになりましたが、それよりも小児科デビューである1ヶ月健診や予防接種の時の/母親への接種勧奨が大切です。次回の児の予防接種の時には/母親への接種の確認と/催促も出来ます。産後産科での接種をする事が本来の姿ではありますが、小児科でも/児の予防接種の時は母親の風疹抗体価の確認と接種勧奨を致しましょう。

結語

風疹低抗体価の産褥婦は産後早々に接種を！

母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

小児科でも母親への風疹の予防接種を！

産科にも声を掛けよう！

結語であります。

風疹ワクチンの接種は産科に任せっきりにしな
いで、小児科でも母子手帳で母親の風疹抗体価の
チェックをし、積極的にワクチンの接種をしまし
よう。